



こども

産み育てる環境

子育て環境の充実

子育てにおける安心の確保

子育てにかかる経済的負担の軽減

就学前教育・保育

こどもの育ちと

多様なニーズへの支援

施設・環境の充実

学校教育

学びの充実

一人ひとりの学びへの支援

学校施設の整備

地域子育て支援

こどもの居場所づくり

こどもを見守る社会づくり



こども

5年後の目標

産み育てる環境

安心してこどもを産み、育てられる環境が整い、
全てのこどもがその子らしく健やかに育っている。

●概況●

国は令和5年に「こども家庭庁」設置、「こども基本法」施行など、「こどもまんなか社会」の実現に向けて取り組んでいます。本市の出生数は微減傾向にあるものの、子育て世帯の転入などにより、年少人口が一定維持されています。

妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援、子育て支援医療費の助成拡充、児童福祉と母子保健を一体的に対応する「こども家庭センター」の設置などに取り組むとともに、療育を必要とする児童に対応する児童発達支援センターの開設を進めるなど、「産み育てる環境」の充実を図っています。

施策

子育て環境の充実

5年後
の
姿

こどもを望む人が安心して妊娠・出産・子育てができる環境の中で、全てのこどもが健やかに育っている。

子育てにおける安心の確保

5年後
の
姿

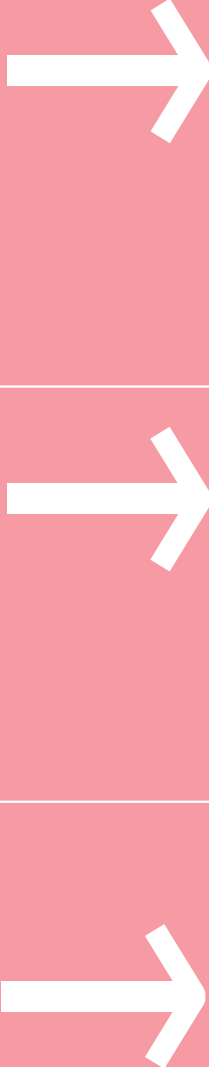
家庭環境や障がいの有無にかかわらず、支援が必要なこどもと家庭が支えられ、安心して暮らしている。

子育てにかかる 経済的負担の軽減

5年後
の
姿

妊娠・出産・子育て・教育に関する家庭の経済的負担が軽減している。

主な取組

- 
- ◇ 全てのこどもの健やかな成長を支える「こどもまんなか社会」の実現に向けて、こどもまんなかプロジェクトチームを設置します。
 - ◆ 公共施設の再編等を進める中で、地域子育て支援センターなど、子育ての相談や親子が遊び、交流できる場へのニーズに応えます。
 - ◇ プレコンセプションケアを推進し、若者が将来のライフプランを考えて、日々の生活や健康に向き合う機会をつくれます。
 - ◇ 男性の育児参加を進めるため、こどもの出生前から育児の具体的な手技を習得できるような教室等を開催します。
-
- ◇ こども家庭センターを中心に、福祉・医療・教育との連携を強化し、一体的な支援体制を構築します。また、ヤングケアラーの支援にも取り組みます。
 - ◇ 保育所・幼稚園・学校等における医療的ケア児の受入に必要な人員体制を整え、児童発達支援センターとも連携します。
 - ◇ 共生型交流エリアを核として、児童発達支援センターと福祉・医療・教育機関の連携による発達障がい児支援モデルの構築に向け、京都府と共に取り組みます。
 - ◇ 妊婦への経済的支援と共に、アウトリーチ型の支援など、こどもの成長に合わせた切れ目ない支援を充実させます。
-
- ◇ 子育て支援医療費の助成制度について、京都府と連携して充実を図ります。
 - ◇ 様々な年代の子育てにかかる経済的負担について、国の動向をふまえた軽減策を講じます。



こども

5年後の目標

就学前教育・保育

就学前のこどもが、家庭や地域に守られ、
良好な育ちと学びの環境で伸びやかに生活している。

●概況●

民間保育施設の誘致や定員拡充などにより、待機児童ゼロを維持しています。保育ニーズが高まる中、施設などのハード整備と合わせ、保育士をはじめとする人的資源確保による受入人数の拡充など、ソフト面での対策が求められています。

併せて多様なニーズに対応した保育サービスや施設環境の充実も重要です。義務教育への円滑な移行のためにも、就学前のこどもの成長を支える良好な環境の確保が求められます。

施策

こどもの育ちと 多様なニーズへの支援

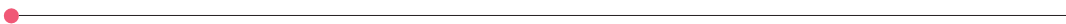
5年後
の
姿

こどもの成長と家庭を支えるサービスが充実し、保護者は子育てと仕事などを両立できる環境になっている。

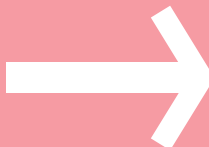
施設・環境の充実

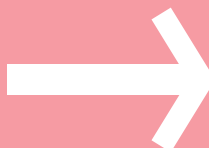
5年後
の
姿

施設の安全・快適性が保たれ、こどもが安心して過ごしている。



主な取組

- 
- ◇ 公立保育所において、民間サービスの導入など、快適な保育所づくりを進めます。
 - ◇ 国が進める DX を活用し、保育所入所申請に係る保護者負担の軽減と入所希望とのアンマッチの解消を図ります。
 - ◇ 保育所や幼稚園等の受入状況を踏まえ、乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)の導入など 0 歳～2 歳児への支援を充実させます。

- 
- ◇ 深田保育所の建替整備を進めます。
 - ◇ 民間の就学前教育・保育施設の整備や改修を支援します。
 - ◇ 公立民間を問わず、保育士確保の取組を強化します。



こども

5年後の目標

学校教育

こどもが学校・家庭・地域に学びながら
「生きる力」を培って、未来に夢を描いている。

●概況●

義務教育では、体験を重視した学びの中で、児童生徒の生涯にわたる学習の基礎となる「生きる力」を育むことを重視しています。

児童生徒一人1台タブレット端末を配布し、授業や家庭学習で活用しています。学びを深められる機会の提供や、生活や学びにわたる課題の早期発見など児童生徒の能力や可能性を最大限に伸ばし、個々の特徴に応じた、切れ目ない指導・支援を行い、一人ひとりを大切にする教育が求められます。

長岡第四小学校の新校舎の整備、全特別教室への空調設置など学習環境が充実しました。

学校は児童生徒が長い時間を過ごす生活の場であり、地域のコミュニティの拠点としても機能しているため、快適に過ごせる環境整備も重要です。

施策

学びの充実

5年後
の
姿

児童生徒が「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を基に「しなやか」に生きていく力を育んでいる。

一人ひとりの学びへの支援

5年後
の
姿

児童生徒の特徴に応じた切れ目ない学びの提供と支援により、一人ひとりの能力や可能性を伸ばしている。

学校施設の整備

5年後
の
姿

学校の良い学習環境と安全・快適性が保たれ、地域住民の集いの場や災害時の避難所としても機能している。

主な取組

- ◇ DX を効果的に活用し、「個別最適な学び」「協働的な学び」を深めます。
 - ◇ 専門的な知見やデータを活用し、市全体の学力・体力を底上げします。
 - ◇ 外国との交流や外国語活動、アーリントン短期留学など国際理解教育を充実させます。
 - ◇ 学校生活の中で豊かな読書経験ができるよう学校図書室の充実を図ります。
 - ◇ 主権者教育と併せて「こども基本法」について学ぶ機会を確保します。
- ◇ 人権教育をあらゆる教育活動の基盤に位置付け、誰一人取り残さない学校を目指し、不登校・いじめ対策を進めます。
 - ◆ 学術研究機関と連携し、脳科学など最新の知見を活用しながら、科学的根拠に基づく学習・生活支援を進めます。
 - ◇ 校内教育支援センター(別室)やフリースクールとの連携など、こどもが居場所を選べる環境をつくり、切れ目のない支援体制を構築します。
 - ◇ 生徒の部活動の選択肢を増やすため、複数校合同部活動の環境整備や市民指導者の派遣など、中学校部活動の地域展開を進めます。
- ◇ 小中学校の体育館・武道場の空調整備に続き、普通教室の空調を更新します。
 - ◇ 長岡第三小学校の建替整備を進めます。また、老朽化が進む学校を対象に整備や長寿命化の方針を具体的に定めます。
 - ◇ 快適な学校生活を送れるよう、校内の施設・設備をきめ細かく整備します。
 - ◇ 学校施設における環境への取組の一環として、緑化や LED 化を進めます。



こども

5年後の目標

地域子育て支援

こどもが地域社会の一員として尊重され、多様な体験機会に恵まれて、まちの将来を担う心と力を培っている。

●概況●

放課後児童クラブは小学校1年生～4年生を対象に市内全小学校に設置しています。入所希望児童が増えつつある中で、老朽化や狭あい化の対応が必要となっています。また、多様化するニーズにも柔軟に 대응できるよう、効率的で質の高いサービス提供体制についての検討が求められます。

地域学校協働推進事業を市内全小中学校で実施し、自然や地域の人との関わりの中で、様々な体験を通じて学ぶ機会を提供しています。

今後も、地域ぐるみでこどもを育てる気運を高め、住民の参画と協働によってこどもの居場所をつくることが重要です。

施策

こどもの居場所づくり

5年後の姿

地域に様々なこどもの居場所をつくり、全てのこどもが健やかに、自分らしく成長している。

こどもを見守る社会づくり

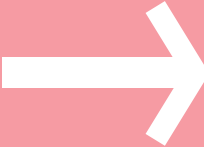
5年後の姿

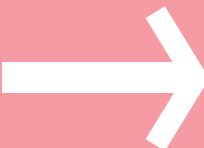
こどもが意見表明する機会を確保しながら「こども目線」のまちづくりに取り組み、こども・若者の育成を社会全体で支えている。

こども

地域子育て支援

主な取組

- 
- ◇ 放課後児童クラブの整備と民間との連携を進め、学校敷地内に立地する本市の特長を活かしてサービスを提供します。
 - ◇ 地域学校協働活動を通して、こどもに様々な体験や活動の機会を提供します。
 - ◆ 公共施設の再編等を進める中で、地域子育て支援センターなど、子育ての相談や親子が遊び、交流できる場へのニーズに応えます。

- 
- ◇ ハード・ソフトの両面でこども目線のまちづくりを進めます。
 - ◇ 生きづらさを抱えたこども・若者に対する相談支援等を総合的に行う体制を整備します。
 - ◆ こどもの居場所をつくる取組等を通して多世代が交流する場をつくり、地域における互助・共助の力を育んでいきます。



保健・医療

健康づくりの促進

医療体制の確保及び福祉との連携

高齢福祉・障がい福祉

健幸長寿を支える環境づくり

高齢者への介護等支援の充実

障がいのある人等への支援の充実

地域福祉

とりこぼさない支援体制の実践

地域共生社会の基礎づくり

セーフティネット

公的な生活支援の充実

社会保障制度の適正運用



くらし

5年後の目標

保健・医療

健康づくりの意識と行動が浸透し、市内で安心して医療を受けることができ、市民の健康寿命が延伸している。

●概況●

健康診断・検診の受診率の向上に向け、デジタル技術を用いた多方面からの情報発信を行っています。市民が生活の中で健康に関する知識を身につけ、健康に過ごすための生活を実践できる環境づくりが重要です。

令和4年6月に公的病院である京都済生会病院が新築移転し、救急医療をはじめ、小児・周産期医療等いわゆる不採算医療を担っています。高齢者の救急搬送が増加しており、今後も確実に高齢化が進むことを見通して、地域医療との更なる連携が求められます。

一方で、人生の終わりをどこで過ごし、どのように迎えるか、一人ひとりの思いに沿った選択肢があり、看取る家族の思いを支えられる環境は社会の豊かさのひとつの要素です。個々人の選択の幅を広げていくために、医療と福祉が連携し、在宅医療・介護の環境を整える必要があります。

施策

健康づくりの促進

5年後の姿

「自分の健康は自分で守る」という意識のもと、青壮年期から疾病の予防と早期発見に向けて行動を変え、健康寿命が延伸している。

医療体制の確保及び福祉との連携

5年後の姿

かかりつけ医と総合病院等との連携に加え、医療と福祉の連携により、市民が疾病・介護時の不安がない生活を送っている。

主な取組

- 
- ◇ 健康づくりの3要素「栄養・運動・休養」に関する知識と関心を広め、青壮年期を中心に、自然に行動へとつながる保健活動を目指します。
 - ◇ 健康診断や各種検診、予防接種など、健康な生活を送るための基礎的な保健活動を展開します。
 - ◇ 食育のポピュレーションアプローチにおいて、健康づくりに加え、フードロスなど食に関する多角的な視点を提供できるよう工夫します。
 - ◇ 感染症発生時には、対策本部を中心に正確な情報提供や関係機関と連携した迅速な対応に努めます。

- 
- ◇ 京都済生会病院に対する不採算医療部門への支援やかかりつけ医との連携、休日の診療体制の確保など、市内の医療提供体制を支えます。
 - ◇ 医療・介護関係者のプラットフォームを形成し、資源の把握や課題の抽出、関係者への相談支援など、切れ目のない在宅医療・在宅介護の提供体制を構築します。
 - ◇ がん患者のアピアランスケア支援事業や若年がん患者の在宅療養支援事業を通して、患者本人が望む生活を送れるよう支援します。



くらし

5年後の目標

高齢福祉・障がい福祉

介護が必要になっても、障がいがあっても、
誰もが住み慣れた地域で、その人らしく暮らしている。

●概況●

本市では、地域包括ケアシステムの構築に向けた様々な取組を進めています。令和6年には介護予防と世代間交流等を目的とした「健幸すぽっと のびのび苑」を整備しました。元気な高齢者の社会参加の促進、認知症対策や介護予防に取り組める環境づくり、互助・共助を基本とした見守り・支え合う地域づくりも必要です。

向日が丘支援学校の整備を契機とした共生型交流エリアの整備が進み、乙訓圏域初の児童発達支援センターの開設も控え、障がい福祉サービスの充実や市民との交流が期待されます。障がいのある人等への理解と支援が進み、地域社会の中で支え合いながら、障がい等の状態にかかわらず、生涯を通じて自分らしく生活できる社会の実現が求められます。

今後、急速な高齢化によって、介護、医療、生活支援等のニーズの増大が見込まれる一方で、支援従事者などのマンパワーが不足する中、誰もが必要なサービスを選択・利用できる体制の確保が求められます。

施策

健幸長寿を支える環境づくり

5年後
の
姿

経験や能力を活かした社会参画を通して、高齢者が生きがいや喜びを感じ、いきいきと暮らしている。

高齢者への介護等支援の充実

5年後
の
姿

認知症や介護等への市民の理解が進み、介護が必要な人やその家族が住み慣れた地域で安心して生活している。

障がいのある人等への 支援の充実

5年後
の
姿

障がいの有無にかかわらず、全ての人が自分らしく暮らしている。

主な取組

- ◇ 仲間づくりの支援、多様な体験型のプログラムやトレーニングメニューの提供、高齢者 e スポーツの導入等“楽しい”介護予防と健康づくりを展開します。
- ◇ シルバー人材センター、やすらぎクラブ長岡京、関係団体が連携し、高齢者の活動発表の場、スキルを仕事や地域活動で活かすマッチングの場を創出します。
- ◇ 各種の地域活動やコミュニティの活性化を支援することで、生涯活躍や介護予防の実践となる場づくりを進めます。

- ◇ 認知症の早期発見から、自分らしく過ごせる支援、家族介護者へのエンパワメントまで、医療・福祉・商業等の多業種連携による地域包括ケアシステムを構築します。
- ◇ 認知症サポーターの養成など認知症や介護に対する社会全体の理解が深まる取組を進めます。
- ◇ 相談機能やサービスを充実させ、介護者の社会活動と介護の両立を支援します。
- ◇ DX を活用した介護事業所と行政とのネットワークの構築により、情報共有の円滑化、業務効率化を図るなど、働きやすい環境をつくり、人材確保につなげます。

- ◇ 共生型交流エリアに立地する各施設と市民、福祉施設等との“垣根のない交流”を通し、「誰もが共に自分らしく暮らす長岡京市」を実践します。
- ◇ 福祉と農林水産業との連携による事業化を支援するほか、「ほっこりんぐ」をインクルーシブ公園や市民広場等で開催し、販売機会拡大につなげます。
- ◇ 障がい者雇用の促進のため、雇用側が相談できる公的サービスを案内します。
- ◇ アール・ブリュットやボッチャなど文化スポーツの場を通して、障がいのある人もない人も共に楽しみ、活躍できる場づくりに取り組みます。

- ◆ 障がいや障がい者を取巻く環境への理解を深めるとともに、社会的バリアの解消に努め、「合理的配慮」が自然に行われる社会を目指します。



くらし

5年後の目標

地域福祉

地域での支え合い・助け合いと公助が連携し、誰もが
住み慣れた地域で安心して暮らすことができる。

●概況●

令和5年度、生活面で複合的な課題を抱える世帯に対し、包括的な支援と地域住民等による地域福祉の推進を一体的かつ重層的に実施する「とりこぼさない支援体制(重層的支援体制)」と「とりこぼさない支援を考えるプラットフォーム」を構築しました。

こうした仕組みを活かし、地域共生社会づくりを進めていくことが求められます。

施策

とりこぼさない支援体制の 実践

5年後
の
姿

福祉的な支援を必要とする全ての人に
支援が届き、誰もが安心して暮らして
いる。

地域共生社会の基礎づくり

5年後
の
姿

福祉関係者のネットワークや地域のつ
ながりの中で、誰もが安心して暮らせる
地域共生社会となっている。

主な取組

- 
- ◇ 複合的な課題を抱える世帯に対し、行政や関係機関が協働して多様なアプローチと重層的な支援を進めます。
 - ◆ 学術研究機関と連携し、脳科学など最新の知見を活用しながら、科学的根拠に基づく学習・生活支援を進めます。
 - ◇ ひきこもり状態にある人や家族に対し、相談等を行う支援体制を構築します。
 - ◇ 民間事業者と連携し、多様な就業先や新しい活動と居場所の開拓を通して、発達障がい疑いやひきこもり状態にある人を支援します。

- 
- ◇ 社会福祉協議会と共に社会福祉法人や福祉活動を展開する NPO・市民活動団体とのネットワークを形成し、多機関協働の取組を強化します。
 - ◆ こどもの居場所をつくる取組を通して多世代が交流する場をつくり、地域における互助・共助の力を育んでいきます。
 - ◇ 社会環境の変化に合わせ、民生委員・児童委員の活動を支える環境を整備します。



くらし

5年後の目標

セーフティネット

年金と医療・介護保険の制度が円滑に運用され、生活困窮の状態の人に適切な保護と自立支援が行われている。

●概況●

生活に困窮する人への「福祉なんでも相談室」による個別プラン作成と伴走支援を行っています。社会経済や雇用状況などの変化に伴って、生活保護制度の適切な運用と関係機関との連携による早期の生活自立に向けた支援が重要です。

年金、医療保険、介護保険の各制度を、公平かつ適正に運用しています。今後、これらの制度を堅実に運用することが必要です。

施策

公的な生活支援の充実

5年後の姿

生活に不安を抱える人、生活困窮にある人が早期の支援によって自立へと向かうとともに、包括的な支援が提供されている。

社会保障制度の適正運用

5年後の姿

年金、医療保険、介護保険の各制度が安定して運用され、市民の健康と生活の安心が守られている。

主な取組

- ◇ 生活保護制度を適正に運用し、生活保護受給の前後を問わず、生活の安定及び就労による自立と社会参加を支援します。
- ◇ 健康への意識に個人差の大きい高齢や単身の生活保護受給者を中心に、健康管理を支援します。
- ◇ 福祉なんでも相談室において、住まいの確保や家計の見直しなど幅広い生活の困りごとに、専門の相談員が寄り添い、支援します。
- ◇ 公営住宅の長寿命化に取り組みます。また、不動産業界や京都府と共に、高齢者をはじめ見守りが必要な人の居住環境整備を進めます。

- ◇ 国や府、後期高齢者医療広域連合と共に、医療保険財政を支え、制度の安定的な運用における基礎自治体としての役割を果たします。
- ◇ DX を活用し、国民健康保険の各種手続の簡素化と利便性の向上を図ります。
- ◇ 介護保険サービスを安定的に利用できるよう、保険者としての役割を果たします。
- ◇ 国民年金の身近な窓口として、相談体制を維持します。



かがやき

人權

人権・平和を尊ぶまちづくり

多様性を認め合う

共生とインクルージョンの実現

協働

自治活動の充実

市民活動の活性化と連携の促進

生涯学習・文化・スポーツ

生涯学習環境の充実

文化・芸術の振興

スポーツの振興



かがやき

5年後の目標

人権

一人ひとりの人権が尊重される居心地のよいまちで、誰もがその人らしく、自らの個性と能力を発揮している。

●概況●

関係団体・機関との連携や地域の見守り機能の強化を通して、人権擁護を図っていますが、情報技術の発達に伴って、人権侵害の態様は複雑化し、深刻な事例も後を絶ちません。

「いのち輝く長岡京市平和都市宣言」に基づいて、市民に対して幅広く、たゆまず、平和の大切さを啓発することが求められます。

女性の社会進出は介護や子育てを巡る環境など社会を大きく変えました。この流れを止めることなく、行政はあらゆる分野での女性の活躍を進めるために支援していく必要があります。なお、市民意識調査の結果からは社会の変化が実感されていないことが分かるため、引続き女性にフォーカスを当てた取組が求められます。

性的指向や性自認にかかわらず、自分らしく生きられるようパートナーシップ宣誓制度の導入や都市間連携にも取り組みました。

施策

人権・平和を尊ぶまちづくり

5年後の姿

一人ひとりが確かな人権意識と平和を尊ぶ心を持ち、差別と人権侵害に対して考え行動する力を有している。

多様性を認め合う 共生とインクルージョンの実現

5年後の姿

多様性を認め合い、一人ひとりがかけがえのない社会の一員として、共に支え合いながら暮らすことのできるインクルーシブな社会を築いている。

主な取組

かがやき

人権

- 
- ◇ 様々な人権問題の解消に取り組む市の方針を明確にし、施策を展開することで、市民の人権意識を高め、互いに尊重し合える社会を実現します。
 - ◇ 増加するインターネットや SNS による人権侵害に対し、関係機関と連携し的確に対応します。
 - ◇ 戦後 80 年を越え、戦争の記憶が薄らぐ中で、「平和」の大切さや「命」の尊さを次世代へ継承できる取組を展開します。

- 
- ◇ 男女共同参画センターにおいて、相談スペースのリデザインや出張相談、相談カフェなど相談しやすい環境づくりを進めます。
 - ◇ 「困難な問題を抱える女性」を支援するため、民間団体との協働体制を構築します。
 - ◇ 講演会、相談会の実施や、「にじいろ企業登録制度」を通して、性の多様性への理解を促進します。
 - ◆ 障がいや障がい者を取り巻く環境への理解を深めるとともに、社会的バリアの解消に努め、「合理的配慮」が自然に行われる社会を目指します。



かがやき

5年後の目標

協働

地縁型・テーマ型の多様な市民活動が展開され、ふれあいと交流、協働によって、まちが元気になっている。

●概況●

令和5年1月に「長岡京市助け合いとつながりのまちづくり条例」を施行しました。条例の理念を実現するため、多様な市民と市が共にまちづくりを自分ごととして捉え考える場として「まち活 MTG(ミーティング)」を設置しました。幅広い年齢層や様々な考え方を持つ市民が自治活動や協働について考え、実践につながり始めています。

自治会加入率は年々低下していますが、持続可能な自治会活動や、自治活動の多様な考え方・あり方を取り入れる取組も動き始めています。

一方で環境や子育てなどテーマ型の市民活動に取り組む団体は増加し、多様な活動が活発に展開されています。

今後、こうした地域を支える団体の活動が継続的に展開されるよう個々の実情に応じた支援が求められます。

施策

自治活動の充実

5年後の姿

地域住民の間につながりが生まれ、防災・防犯や環境保全等、地域が主体となった活動が行われている。

市民活動の活性化と連携の促進

5年後の姿

経験や趣味を活かしながら市民活動に参画する人が増え、団体の活動や協働がまちづくりの力になっている。

主な取組

かがやき

協働

- 
- ◇ 自治会業務のデジタル化など自治会運営の負担を軽減し、各地域の実情に応じた必要な支援を行います。
 - ◇ 自治会未組織地域に対しては、被災時に助け合える仕組づくりを契機に、マンション等みなし自治会や自主防災組織の立上げなど地域自治の活性化を支援します。
 - ◇ 地域集会所の老朽化対応やバリアフリー化など、新陳代謝を図る取組を支えます。
 - ◇ 校区コミュニティ協議会を中心に、校区単位の団体間連携を進めることで、校区内共助機能の強化を支援します。

- 
- ◇ 市民活動サポートセンターとまち活 MTG 事業との連携のほか、市民活動のスタートアップから専門的な活動まで、各段階に応じた伴走支援体制を構築します。
 - ◇ 市民活動サポートセンターの機能として、市民活動に加えて自治会など地縁型団体も支援することで、団体間、市民間のネットワークを創出します。
 - ◆ 市民参画の機会を増やすため、オンラインプラットフォームなど新たな手法も研究しながら、市民間コミュニケーションの活性化を図ります。



かがやき

5年後の目標

生涯学習・文化・スポーツ

誰もが学びの喜びに満ち、文化や歴史に親しみ、運動・スポーツを楽しむ機会が充実し、生活にうるおいと心身の健康を感じている。

●概況●

多くの市民が文化・芸術・スポーツ活動に積極的に参加しています。それぞれの「する」「みる」「ささえる」といった様々な活動を通して、新たな知識や仲間との出会いを生み出しています。市民生活の身近なところで、日常的に文化やスポーツに親しむ場と機会の充実を図ることにより、市民の諸活動を更に活発にし、文化・学習活動を広げ、健康、体力を保持増進するきっかけとなることが求められます。

文化財については、市内各所において長年発掘・調査を進めており、令和4年度には「長岡京市文化財保存活用地域計画」が文化庁の認定を受けました。貴重な文化財を後世へ伝え、市民共有の財産とする取組が必要です。

施策

生涯学習環境の充実

5年後の姿

誰もが人生を通して学びへの意欲を向上させ、また、仲間と共に学びを楽しみ、自己実現につなげている。

文化・芸術の振興

5年後の姿

ふるさとの文化・歴史や良質な芸術に親しむ機会が増え、市民の多彩な活動がまちの魅力をつくっている。

スポーツの振興

5年後の姿

心身の健康を保つため、誰もが日常生活の中で運動・スポーツに親しみ、これを通じた交流を楽しんでいる。

主な取組

かがやき

生涯学習・文化・スポーツ

- ◇ 生涯学習に関する講座情報を一元化し、市民が必要な情報にアクセスしやすくします。また、各種講演の録画配信など生涯学習の機会を拡充します。
- ◇ 人材データベースを開設し、生涯学習やボランティアなど様々な場面で市民が活躍できるマッチングシステムを構築します。
- ◇ 図書館は蔵書の充実に加え、様々な世代が憩う場になるようユニバーサルデザインの視点を持ちながら、各ゾーンの配置を工夫し、リノベーションします。
- ◇ 図書館、中央公民館、京都府長岡京記念文化会館のエリアは、京都府と連携し、地域の文化ゾーンとしてリニューアル整備を進めます。

- ◇ 長岡京記念文化事業団と連携した良質な文化芸術の提供や、文化団体への運営支援を通じたイベント開催など、市民の文化活動の機会確保に取り組みます。
- ◇ 長岡京芸術劇場の充実や市立中学校吹奏楽部とプロやアマチュア楽団との連携など、こどもが音楽や演劇などの文化に触れる機会を創出します。
- ◇ アール・ブリュットなど文化を通して、障がいのある人もない人も共に楽しみ、活躍できる場づくりに取り組みます。
- ◇ 歴史資料展示室での最新デジタル技術を使った展示・企画により、市内周遊の拠点機能を発揮します。また、埋蔵文化財の保管体制を強化し、活用を進めます。

- ◇ ニュースポーツ(ファミリーバドミントン、ミニバレーボール等)など幅広い年代で楽しめるスポーツの普及を通して、生涯にわたるスポーツライフを提案します。
- ◇ インクルーシブな取組(ボッチャ等)を通して、障がいのある人もない人も共に楽しみ、活躍できるスポーツ環境を整えます。
- ◇ こどもの体力・運動能力向上を目指し、親子参加やこども向けのスポーツイベント、遊べる場所の整備に取り組みます。
- ◇ 公共施設の再編を通して、スポーツを「する」環境の充実を図ります。



まち

市街地

中心市街地整備の推進

調和のとれた都市形成

道路·交通

道路空間の整備

交通ネットワークの充実

産業

商工業・観光の振興

宮農支援

防災・安全

都市防災機能の向上

災害時に生きる

ネットワークづくり

安全・安心な地域づくり



まち

5年後の目標

市街地

自然環境、都市機能と住環境の調和が保たれたまちで、市街地の魅力向上が展望できる。

●概況●

阪急長岡天神駅東口広場公園の開園、JR 長岡京駅東口駅前広場の整備、市役所新庁舎(1期)の完成など、中心市街地の都市基盤整備を進めています。

令和8年度には新庁舎の整備を終え、阪急長岡天神駅周辺が本市の市街地整備における大きな課題となります。都市活力の維持・向上のため、にぎわいのある中心市街地の整備と合わせ、高齢者等の移動負担が軽減され、誰もが暮らしやすいコンパクトなまちづくりが求められます。

本市が形成してきた西山の自然と良好な住環境、商工業が調和するまちを維持していくことも重要です。

施策

中心市街地整備の推進

5年後
の
姿

「ひと中心のにぎわいのあるまち」をコンセプトとした阪急長岡天神駅周辺のまちづくりが進展している。

調和のとれた都市形成

5年後
の
姿

住・工・商・農の調和がとれたうるおいのある都市空間が形成されている。

主な取組

- 
- ◇ 阪急長岡天神駅西地区は、土地の高度利用を図り、駅前広場やにぎわいのある都心拠点の整備に向けた計画を地域と連携して具体化します。
 - ◇ 阪急長岡天神駅東地区は、連続立体交差化を目指し、土地の取得や補助幹線道路の整備などを段階的に進めます。
 - ◇ JR 長岡京駅東口や市役所の市民広場など居心地の良い公共空間の整備により、にぎわいと魅力ある中心市街地をつくります。

- 
- ◇ 市域全体の土地利用の適正化に向けた取組を進め、経済振興や事業所の集積・流出防止を図ります。
 - ◇ 今後増加が予測される管理不全の空き家について、情報発信と行政プラットフォームや空き家バンクを通し、未然防止と利活用を促進します。
 - ◇ マンション管理組合に対して、管理計画の認定や専門家の派遣などを行い、マンションの適正な維持管理を支援します。

まち

市街地



道路・交通

道路の整備や、交通のネットワーク化が進み、誰もが移動しやすいまちになっている。

●概況●

通学路など歩行者を優先した道路空間や自転車ネットワーク路線の整備など、歩行者・自転車共に安全・安心に移動できるまちづくりが求められます。

本市は鉄道や主要幹線道路の利便性が高く、路線バスとコミュニティバスの運行により、市街化区域のほぼ全域を鉄道駅勢圏及びバス停勢圏で網羅しています。

過度に車に依存しなくても暮らせるまちづくりを目指し、人口減少やライフスタイルの変化、環境、健康、安全面に配慮した、将来にわたって使い続けられる交通システムが必要です。

施策

道路空間の整備

5年後の姿

歩車道の維持と整備、バリアフリー化が進んで、道路空間の安全性と快適性が向上している。

交通ネットワークの充実

5年後の姿

多様な移動手段による交通ネットワークが充実し、市民・来訪者が安全・円滑に移動できる環境が保たれている。

主な取組

- 
- ◇ 長岡京駅前線の整備を進めます。
 - ◇ 京都府と連携し、御陵山崎線の整備を進めます。
 - ◆ 京都府と連携し、通学路の歩道整備や交差点の改良など安全対策を進めます。
 - ◇ 生活道路は計画的な舗装復旧や歩行空間を確保し、バリアフリー化を進めます。
 - ◇ 橋梁の長寿命化を推進し、適切に維持管理します。

- 
- ◇ 公共交通基金など様々な財源を確保し、担い手の確保を含めた交通事業者への支援、利用者支援のほか、モビリティ・マネジメントの活用等に取り組みます。
 - ◇ 駐輪場やパークアンドライド駐車場の設置・運営を進めます。
 - ◇ 自家用車に依存したライフスタイルからの転換を目指す一環として、自転車ネットワーク路線の整備を進めます。

まち

道路・交通



まち

5年後の目標

産業

地域内の経済循環が高まり、さらなるまちの魅力・活力の創出により市内外からの新たな交流が生まれている。

●概況●

本市は、製造業を中心とする企業が立地し、建設業、小売業、飲食サービス業等、バランスの取れた多様な産業構造を有しています。地域経済の持続的発展には、企業の立地促進と流出防止、市内事業所の大部分を占める中小企業の振興を継続することが重要です。

市内各所に魅力的な観光資源が点在しています。これらを活用し、地域の「稼ぐ力」、観光の目的地、定住へとつながる観光の振興が求められています。

農地が市街地の中にもあり、まちに緑とうるおいをもたらせていることが本市の特長ですが、農業の担い手不足や、有害鳥獣による被害などの問題を抱えています。安定した農業経営と農地の保全を図ることが重要です。

施策

商工業・観光の振興

5年後
の
姿

工業が都市活力の基盤となり、商業・観光がまちににぎわいと交流の好循環をもたらしている。

営農支援

5年後
の
姿

安定した農業経営と農地保全により、都市と農業との共生が図られている。

主な取組

まち

産業

- 
- ◇ 中小企業や関係団体、市民、行政等が一体で、地域内の経済循環に取り組めます。特に、事業者主体の経済循環のためのプラットフォーム構築を支援します。
 - ◇ 金融機関や関係団体と連携し、創業や事業承継、中小企業の持続的な成長を支援します。
 - ◇ 中心市街地における企業誘致や商業誘導とあわせて、工業系地域における企業の流出防止を図り、地域経済の発展につなげます。
 - ◇ 観光戦略プランを推進し、地域の魅力をつくる事業者の発掘や魅力ある観光コンテンツの組成を進め、集客や観光消費の喚起につなげます。
 - ◇ 旅行会社やメディア等へ働きかけを行い、ツアー造成や情報発信につなげます。更に広域的な取組により「京都西山」のブランド力を強化します。

- 
- ◇ 高品質な農産物の生産、多様な販路の活用、担い手への農地集積など農業の経営基盤の強化や効率化に向けて支援します。
 - ◇ 経営改善を計画する農業者を支援し、意欲ある担い手によって担い手不在の農地が活用されるよう進めます。
 - ◇ 朝市や軒先販売、イベント等の直売を通して地元農産物の魅力を発信するとともに、学校給食での利用拡大など、地産地消を促進し、地域農業を活性化します。
 - ◇ 獣害防護柵や有害鳥獣捕獲などの対策を強化し、農作物の被害軽減を図ります。



防災・安全

防災機能が強化されたまちで市民生活の安全が守られ、地域のつながりが日常生活の安心を育んでいる。

●概況●

南海トラフ巨大地震が今後 30 年以内に発生する確率が 80%程度に引き上げられたことに伴い、地震対策への要請がより一層強まっています。また、全国各地で豪雨災害が頻発しており、浸水対策の重要性も高くなっています。

防災施設の機能向上と共に、市民、自主防災会等と連携した防災・防犯などの対策の強化が重要です。

防犯・交通安全などの日常の安心は、地域や市民一人ひとりの意識と行動で保たれていますが、高齢者による交通事故の対策や通学路の環境整備に対するニーズも高まっています。

施策

都市防災機能の向上

5年後の姿

地震・浸水等の被害から市民の生命・財産を守る防災・減災の対策が図られている。

災害時に生きるネットワークづくり

5年後の姿

発災時に共助の体制が早期に確立されるなど、地域のネットワークが形成されている。

安全・安心な地域づくり

5年後の姿

防犯・交通安全など、毎日の暮らしの安全・安心を共につくる地域の力が保たれている。

主な取組

- ◇ いろは呑龍トンネル整備に合わせた接続工事と、神足雨水ポンプ場など犬川の浸水対策を進めます。
 - ◆ 下水道管路施設の老朽化対策・耐震化に向けた長寿命化を進めます。
 - ◇ 避難所生活における QOL の向上に努め、学校の空調設備、災害時応急給水栓、生活用水を確保するための井戸の整備に取り組みます。
 - ◇ 防災重点農業用ため池の防災・減災対策を進めます。
 - ◇ 住宅や建築物の耐震診断・耐震改修を支援します。
 - ◇ 東ポンプ場跡地等を活用し、小畑川以東の防災対策に取り組みます。
-
- ◇ 防災訓練や防災フェスタ、出前ミーティングを工夫し、災害時対応や減災の取組、備蓄に関する知識など防災や共助に関する意識の向上を図ります。
 - ◇ 防災士などの人材育成のほか、校区毎の災害ボランティアセンター設置運営訓練や災害時声かけ隊など、災害発生時の共助の仕組づくりを支援します。
 - ◇ 京都府や専門機関、地域と協力しながら、災害時要配慮者の個別避難計画策定を進めます。
-
- ◇ 警察と連携して、交通ルールの遵守、交通安全の知識やマナーの普及を進め、特に自転車と高齢者の交通事故対策に重点的に取り組みます。
 - ◆ 京都府と連携し、通学路の歩道整備や交差点の改良など安全対策を進めます。
 - ◇ 防犯カメラ整備による見守り機能の充実や、警察や防犯委員会と連携した特殊詐欺対策など安全・安心なまちづくりを進めます。

まち

防災・安全



みどり

脱炭素・環境共生

脱炭素社会への地域づくり

地域環境力の向上

西山の整備

生活環境

ごみの減量と適正処理

生活環境の保全

都市空間

魅力的な公園の整備

良好な景観の保全

水資源

水資源の保全

水の安定供給

下水の適正処理



みどり

5年後の目標

脱炭素・環境共生

持続可能な社会づくりのために行動する人の輪が広がり、温室効果ガスの排出量が大きく削減されている。
西山の森林の美しさと生物多様性が保たれている。

●概況●

脱炭素社会への転換を目指し、省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの普及に取り組み、令和4年に「2050年ゼロカーボンシティ」を宣言しました。市域の温室効果ガス排出量の削減には、市民・団体・事業者等との連携が重要です。

最大限の気候変動の「緩和策」を講じて、気温上昇が避けられない世界に適応するための「適応策」も求められます。

「自然と共生する持続可能な社会」の実現のため、世代を超え、市民と企業などが協働することが重要です。更に、各主体が環境問題を「自分ごと化」し、率先した取組を進めていく地域環境力の向上が求められます。

西山森林整備推進協議会を立上げ、西山の整備を始めて20年以上が経過し、市域内の森林の整備が進んでいます。脱炭素社会への転換を進めるためにも、多様な主体と連携して西山の保全を図り、生物多様性に富む豊かな森を未来に継いでいく必要があります。

施策

脱炭素社会への地域づくり

5年後の姿

省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの普及が進み、環境への負荷がさらに低減している。

地域環境力の向上

5年後の姿

“環境の都”長岡京の実現に向け行動する人の輪が広がっている。

西山の整備

5年後の姿

市民・企業等の協働によって西山が整備され、生物多様性が向上している。

主な取組

- 
- ◇ 2050年ゼロカーボンシティの実現に向け、COOL CHOICE 事業等を推進し、より一層の省エネルギー推進と再生可能エネルギーの普及を進めます。
 - ◇ 再生可能エネルギーやエコ建築、省エネ行動など、関係機関と連携して啓発を行い、庁内横断的に適応策を進めます。
 - ◇ 公共施設の整備時には、環境性能に関する評価指標を踏まえ、施設特性に応じて、太陽光パネルや省エネ設備の導入、雨水や木材の利用等を進めます。
 - ◇ 公共施設で使う電気をCO₂フリーにする手法を検討します。
-
- ◇ 市民・団体・事業者等とのパートナーシップによる取組を進めるとともに、環境学習会等を開催し、自然を守ろうとする気持ちを醸成します。
 - ◇ 環境フェア・農業祭等の開催を通して、市民同士の啓発・交流の機会を創出し、環境問題の「自分ごと化」を促します。
 - ◇ 気候変動による影響を大きく受ける若い世代の声を聞き、社会へと発信します。
 - ◇ 環境問題を身近な問題と関連づけ、取組効果の見える化など多様な啓発を行い、市民・団体・事業者等あらゆる主体の参画・協働を促します。
-
- ◇ 西山森林整備構想に基づき、生物多様性を向上させるため、産官学民連携による森林保全活動を推進します。
 - ◇ 西山において、人工林の間伐や二次林の改良、拡大竹林の整備等を継続的に実施し、公益的機能を向上させます。
 - ◇ 西山産の間伐材等を公共建築物等へ利用し、木材の地産地消を通して脱炭素社会の実現に貢献します。

みどり

脱炭素・環境共生



みどり

5年後の目標

生活環境

資源が効率よく循環する社会づくりが進んで、
市民生活による環境への負荷が小さくなっている。

●概況●

家庭系ごみ・事業系ごみ共に減少傾向にあります。

限られた資源の有効利用を図るため、ごみの発生抑制とリサイクルを推進します。

排出されたごみは、市と乙訓環境衛生組合で適正に処理していますが、より効率的かつ安定した処理体制となるよう、一段と取組を推進していく必要があります。また、快適で良好な都市環境の実現が求められます。

施策

ごみの減量と適正処理

5年後
の
姿

市民と行政が一体となり、ごみの減量・分別と適正処理・リサイクルが一層進んでいる。

生活環境の保全

5年後
の
姿

大気・水質、騒音などの環境基準が守られ、自然環境と調和した、快適で健康的な生活環境が保全されている。

主な取組

- 
- ◇ ごみの減量に向けた市民の理解とマナーの向上を目的とする環境教育や、市内活動団体への支援に取り組みます。
 - ◇ 安全・安定した廃棄物処理が継続できるよう、乙訓二市一町及び乙訓環境衛生組合で協調して取り組みます。
 - ◇ ごみの出し方の分かりやすい広報や、廃棄物減量等推進員とも協力した「ごみ減量啓発キャンペーン」などを通してごみを出さないライフスタイルを推進します。
 - ◇ 給食調理くずの飼料化や「ボトル to ボトル」によるペットボトルの水平リサイクル、古紙回収活動団体への助成などにより、再資源化を進めます。

- 
- ◇ 安全・安心・快適な環境の中で暮らし、活動できるよう市独自の環境測定・監視を行います。
 - ◇ まちをきれいにする条例に基づき、適正に管理されていない空き地の所有者に改善を促します。
 - ◇ 動物の適正飼養、ポイ捨て防止や「路上喫煙等の被害の防止に関する指針」に基づく喫煙マナー向上などに取り組み、清潔できれいなまちづくりを進めます。

みどり

生活環境



みどり

5年後の目標

都市空間

近隣の人が憩い、自然とコミュニケーションが生まれる公園や西山からつながる緑の流れなど、魅力的な都市の空間が協働のもとでつくられ、守られている。

●概況●

幼児から高齢者までの多様な年齢層の人や、障がいのある人もない人も誰もが楽しみ、交流できるインクルーシブ公園の整備を進めています。

本市では、転入超過により年少人口が維持されている中で、こどもが年齢に応じて身体を動かせる場を求める声が高まっています。こどもだけでなく、様々な使い方を通して人が憩える空間となる公園の整備が重要です。

自然景観、八条ヶ池や西国街道などの歴史的景観、これらと調和した秩序ある都市景観をつくり守ることが大切です。

施策

魅力的な公園の整備

5年後
の姿

こどもが思いっきり遊べる快適な公園で、多くの人が憩い、癒されている。

良好な景観の保全

5年後
の姿

西山から市街地へ緑の流れが活かされた、うるおいあるまちのたたずまいが未来に引き継がれている。

主な取組

- 
- ◇ 長岡公園の第二期整備、長法寺南原古墳の活用を視野に入れた西山公園の整備を進めます。
 - ◇ 公園施設の長寿命化を図るとともに、誰もが安心して利用できるインクルーシブ公園の整備に取り組みます。
 - ◇ プレイリーダーの配置や指定管理者制度の活用など民間の創意工夫を活かして、公園の魅力向上を図ります。
 - ◇ みどりのサポーターや地域住民と協働で、公園の緑化や環境美化を進めます。

- 
- ◇ 「長岡京市景観計画」に基づき、市民・事業者と協議しながら、地域特性に応じた景観と調和する都市形成を進めます。
 - ◇ 道路・公園・河川・建物などの整備では、計画段階から景観の視点を持ち、空間的・時間的な連続性・一体性を考えた良好な景観形成をけん引します。
 - ◇ 犬川遊歩道は、自然環境と調和し、景観に配慮した整備を進めます。
 - ◇ 水辺環境を保全・再生し、ホテルの棲むふるさとづくりに取り組む団体を支援します。
 - ◇ 屋外広告物の表示・掲出について、良好な景観形成を促進する観点から一定の制限を行ないます。

みどり

都市空間



みどり

5年後の目標

水資源

安全でおいしい水が供給され、使用後もきれいな水として還^{かえ}し、公共水域の水質が保全されている。

●概況●

西山が涵^{かん}養する地下水と府営水の二元水源によって、安全な水道水を安定的に供給しています。適正揚水量を守った地下水の保全や、京都府営水道の効率的な水運用が重要です。

東第2浄水場の耐震補強工事が完了し、浄水施設の耐震化率が100%となりました。管路の老朽化に起因する事故を未然に防ぐためにも、長寿命化などの対策を進めています。

上下水道ビジョンに基づく施設の更新や効率的な水運用が求められます。

施策

水資源の保全

5年後
の
姿

企業・市民の理解と協力のもと、地下水の適切な利用により、良質な水資源が保全・継承されている。

水の安定供給

5年後
の
姿

安全で良質な水道水が、安定的に供給されている。

下水の適正処理

5年後
の
姿

下水道施設・設備の更新が着実に進み、下水の適正な処理によって、公共用水域の水質が保全されている。

主な取組

- 
- ◇ 地下水資源を次世代に継承するため、適切な保全と利用について、市民・企業と共に取り組みます。
 - ◇ 市内の井戸の水位及び使用量の観測を継続的に実施します。

- 
- ◇ 将来にわたり、安全な水を安定的に供給できるよう、京都府や受水市町と連携しながら、水道事業の広域化について協議します。
 - ◇ 水道水質基準に関する国の最新基準や知見等を踏まえ、検査場所や検査頻度等を見直すとともに、給水栓(蛇口)における水質の管理強化を図ります。
 - ◇ 老朽管路更新基本計画を見直しながら、材質(管種)や埋設場所の土質などを踏まえて優先順位を決定し、計画的に管路の更新を進めます。

- 
- ◇ 京都府と連携したウォーターPPPの導入や効果的な執行体制の確保など、持続可能な下水道事業のあり方を検討します。
 - ◆ 下水道管路施設の老朽化対策・耐震化に向けた長寿命化を進めます。

みどり

水資源

け
い
え
い

魅力の共創

シティプロモーション

連携と共創

安定した行財政運営

魅力ある人財と組織

DX の推進

安定した財政運営と

資産の有効活用



けいえい

5年後の目標

魅力の共創

誰もがいきいきと暮らせるまちの魅力が次世代に引継がれ、多様な主体が共にまちづくりを進めている。

●概況●

平成28年度にシティプロモーションガイドラインを策定し、市民・団体・企業等と行政が一体となり、多角的なシティプロモーション活動を展開しています。「かしこ暮らしっく」な本市の住み心地を維持しつつ、「住みたい 住みつづけたい」と思ってもらうために、さまざまな資源を効果的に活用し、持続可能で、より効果的なシティプロモーションを継続していく必要があります。

大学や企業との包括連携協定をはじめ、様々な分野で連携を進めています。行政と大学、行政と企業、行政と市民だけでなく、行政と連携する主体間のコミュニケーションを生み、まちづくりに参画することが求められます。

多様な主体との協働によるまちづくりとシティプロモーションの更なる好循環が重要です。

施策

シティプロモーション

5年後の姿

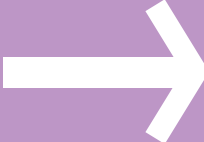
市民が誇りと愛着を持ち、住みつづけたいと感じるまち、市外の人が憧れるまちになっている。

連携と共創

5年後の姿

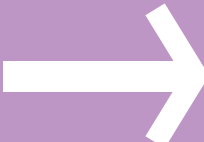
共に長岡京市の未来を語り、つくっていくために、市民等多様な主体とのつながりと対話が進んでいる。

主な取組

- 
- ◇ 市民や事業者、本市のファンなど多様な主体と協働したシティプロモーションを展開します。
 - ◇ ふるさと納税を活かした市の魅力発信と共感の拡大に取り組みます。
 - ◇ 長岡京ガラシャ祭が、多くの市民や企業に支えられて、広く市外からの来訪者にも愛される祭として盛り上げていくよう支援します。

けいえい

魅力の共創

- 
- ◇ 行政の様々な分野で企業との連携を深め、市民サービスの充実につなげます。
 - ◇ 大学や市民活動団体など非営利組織との連携の輪を広げ、双方の知見を活用しながら、公的な課題を共有し、解決します。
 - ◇ 市長自ら積極的に市民と対話し、市民と行政、市民と市民との活発なコミュニケーションを基盤に、多様な主体が参画するまちづくりを目指します。
 - ◆ 市民参画の機会を増やすため、オンラインプラットフォームなど新たな手法も研究しながら、市民間コミュニケーションの活性化を図ります。



安定した行財政運営

市民の信頼が厚く、自律的で持続可能な行財政運営を行っている。

●概況●

民間も含め人材獲得競争が激化する中、従来の発想にとらわれない人材確保・定着策の強化が求められます。

多様な人材が働きやすい職場となるよう、ワーク・ライフ・バランスを推進するとともに、人事制度、職員研修制度、職場環境の整備などにより、職員の持つスキルや能力を最大限に発揮できるようにすることが求められます。

新庁舎の整備を契機として、デジタル技術やデータの活用による市民の利便性向上や、業務の効率化を進めてきました。今後もセキュリティを確保しつつ、誰もがデジタル化の恩恵を享受できる環境整備が求められます。

施策

魅力ある人財と組織

5年後の姿

職員の主体的な学びへの支援やワーク・ライフ・バランスが整った活力あふれる職場で、市民のニーズに的確・迅速に応えられる人材が育っている。

DXの推進

5年後の姿

「行かなくてよい」「書かない、待たない」市役所へと進化し、誰一人取り残さないデジタル化を進め、全ての人にやさしい市役所となっている。

安定した財政運営と資産の有効活用

5年後の姿

限られた財源を効果的・効率的に活用し、安定した財政運営が進められている。

主な取組

- ◇ 組織体制について、市民への分かりやすさ、その時々課題への柔軟な対応や業務効率の向上を視点として、常にアップデートします。
- ◇ 国や府への職員の派遣など他機関との交流を通じた人材育成を進め、人事・研修制度を多角的な視点で見直し、職員のエンゲージメントが高い組織をつくります。
- ◇ 職員の主体的なキャリア形成を支え、市民の期待を超える職員を育てます。
- ◇ 育児・介護休業等を取得しやすい職場風土づくりやオフィス改革など、働きやすい職場の実現に取り組みます。
- ◇ 市の魅力、公務の魅力を発信することに加え、試験方法の工夫や外部人材の採用など、人材確保に努めます。職員数は再任用職員を含めた定員管理を継続します。

- ◇ AIをはじめデジタル技術を活用し、市民の利便性向上を追求すると同時に、行政サービスの質の向上を目指します。
- ◇ CIO(=最高情報統括責任者)をトップとして、デジタル化の取組を推進する中で仕事の見直しを進め、職員の作業負担を軽減し、対人業務の充実を目指します。
- ◇ デジタルデバйд対策を進め、高齢者や障がいがある人にとっても、便利な市役所づくりを進めます。

- ◇ 効果の高い事業への重点投資や時代の変化に応じた事業の再構築など、メリハリの効いた予算を編成します。
- ◇ 金利負担の上昇を見据え、投資的経費の平準化のほか市債発行の多様化等により、公債費負担の抑制を図ります。
- ◇ ネーミングライツの導入や広告収入など歳入の多様化に取り組みます。
- ◇ 市庁舎の完成等に伴い未利用となる公共施設の効果的な活用を努め、公共施設全体の機能再編を進めます。
- ◇ アセットマネジメントを推進することで、長期的な財政負担の軽減を図り、施設跡地など遊休資産を計画的に活用します。

けいせい

安定した行政運営

用語解説

■あ行

用語	説明
アーリントン	長岡京市の姉妹都市でありマサチューセッツ州の町
アール・ブリュット	フランス語で「加工されていない、生（き）の芸術」を意味し、正規の芸術教育を受けていない人が独自の発想と方法で制作する芸術（障がいのある人の自己表現の場として重要な役割を果たしている）
アウトリーチ	援助を求めている人のいる場所に赴いて援助を提供すること。対象者を発見し、つながるための働きかけも指す。
空き家バンク	市が、市内にある空き家の売却・賃貸等を希望する所有者等から提供を受けた情報を、利用希望者に提供する制度。長岡京市では、法律上の「空家」に加え、長屋建てにある住戸を含めて、「空き家」と定義している。
アセットマネジメント	（Asset：資産・財産、Management：経営などの管理をすること）一般には、公共施設の管理水準を一定に維持するとともに、計画的な施設の整備、維持管理、大規模修繕などを実施することにより、施設を延命化し、コスト縮減を実現するための資産管理手法
生きる力	予測困難な社会の変化に主体的にかかわり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのか自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力
医療的ケア児	人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な児童
インクルーシブ	すべての人が排除されることなく包摂され、社会に居場所があること。教育や福祉の領域においては、「障がいがあっても地域で地域の資源を利用し、市民が包み込んだ共生社会を目指す」という理念として捉えられている。
インクルージョン	
ウォーターPPP	水道・下水道・工業用水道(water)における官民連携(Public Private Partnership) のことで、長期契約で管理・更新を一体的にマネジメントする方式
エンゲージメント	仕事にやりがい（誇り）を感じ、熱心に取り組み、仕事から活力を得ている状態
エンパワメント	人にはそれぞれ本来持っている力があり、社会や環境などによって抑圧されているその力を引き出すこと、また行使できるよう社会や環境を整えること
オンラインプラットフォーム	デジタル上で共通の目的を達成するために、人と人、人と企業など複数の主体が出会い、連携・協力するための基盤や仕組み

■か行

用語	説明
かかりつけ医	身近にあり本人の病歴や生活環境を知ったうえで、診療や健康相談を行い、病状の説明や治療を行う医師
がん患者アピアランスケア	がん治療に伴う脱毛や乳房切除など外見変化に起因する苦痛を軽減するケア
共生型交流エリア	向日が丘支援学校の改築に合わせ、共生型福祉施設を新設し、教育・福祉・地域交流機能を有する拠点として一体的に整備することで、障がい者や高齢者等、あらゆる世代が集い相互交流を深めることのできる環境の形成をめざしたエリア
行政プラットフォーム	各種専門家と連携し、空き家に対する相談や流通、利活用をサポートするための体制
健康寿命	健康上の問題で、日常生活が制限されることなく生活できる期間
公営住宅	公営住宅法に基づき国の補助を受けて地方公共団体が、住宅に困窮する低額所得者を対象に、安い家賃（入居世帯の収入や住宅の立地条件、広さ、築年数などに応じて毎年度決定する応能応益家賃）で賃貸する住宅
校内教育支援センター	学校には行けるけれど自分のクラスには入れない時や、少し気持ちを落ち着かせてリラックスしたい時に利用できる、学校内の空き教室等を活用した部屋
合理的配慮	障がいのある人が日常生活や社会生活を送る上で妨げとなる社会的障壁を取り除くために、状況に応じて行われる配慮
国際理解教育	国際社会に生きる日本人としての自覚と責任感を持ち、他の国や民族を尊重し、文化や伝統を価値のあるものとして認め、国際的視野で行動することのできる真の国際人の育成を目指す教育
コミュニティバス	公共交通空白（不便）地域において、高齢者などの外出を支援および促進することで、地域の活性化と市民福祉の向上を図るため、市内を循環するバス
御陵山崎線	京都市西京区から大山崎町に至る乙訓地域を縦貫する幹線道路

■さ行

用語	説明
市街化区域	市街地として積極的に整備する区域で、用途地域（住宅地、商業地、工業地などいくつかの種類）を指定し、道路や公園、下水道などの整備を行い、住宅や店舗、工場など、計画的な市街化を図る区域
自主防災組織	大規模災害等の発生による被害を防止し、軽減するために地域住民

	が連帯し、協力し合って「自らのまちは自ら守る」という精神により、効果的な防災活動を実施することを目的に結成された組織
シティプロモーション	定住人口を増やすために、本市の魅力を発掘・再確認して、市内外へ積極的に発信する取組
児童発達支援センター	障がいのある児童に対する発達支援を行うほか、施設の有する専門性を生かし、地域の障がい児やその家族への相談、障がい児を預かる家族への援助・助言を合わせて行う地域の中核的な障がい児支援施設
市民活動サポートセンター	市民及び非営利市民活動団体の社会貢献活動を支援するため設置された、市における市民活動の拠点
市民活動団体	NP0、ボランティア団体など、一定のテーマ・目的に沿って市民活動を行っている団体
就学前教育	保育所（園）・幼稚園・認定こども園などにおいて提供される就学以前の教育・保育
上下水道ビジョン	上下水道事業を安定的に運営するため、上下水道施設の整備のあり方などを含め経営の方向を示す計画
食育	食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができるようにする教育
シルバー人材センター	健康で働く意欲のある高齢者に就業機会を確保提供し、生きがいづくりや健康・福祉の増進を図ることを目的とした社団法人
水平リサイクル	使用済製品を原料として用いて同一種類の製品を製造するリサイクル
ゼロカーボンシティ	「2050 年に温室効果ガスの排出量又は CO ₂ を実質ゼロにすることを目指す旨を首長自らが又は地方公共団体として公表された地方自治体

■た行

用語	説明
確かな学力	知識や技能だけでなく、学ぶ意欲や、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等までを含めたもの
地域学校協働活動	幅広く地域住民などの参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるために、地域と学校が連携・協働して行うさまざまな活動
地域活動	特定の地域で行われる市民活動
地域共生社会	高齢者介護、障がい福祉、児童福祉、生活困窮者支援などの制度・分野の枠や、「支える側」、「支えられる側」という従来を超えて、

	人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らしていくことのできる包摂的な社会
地域子育て支援センター	地域全体で子育てを支援する基盤の形成を図るため、専任の保育士による子育て指導や親子のふれあいを深める事業、子育て相談などを通して、子育てを支援する施設
地域包括ケアシステム	高齢者、子育て世帯、障がいのある人を含むその地域に暮らす全ての人が、住み慣れた地域で自分らしい生活を持続できるよう、「医療」「介護」「予防」「生活支援」「住まい」支援に一体的に取り組むこと
長寿命化	消耗品やインフラ（生活や産業の基盤となる設備・施設）などの耐久性を向上させ、長持ちさせること
長法寺南原古墳	古墳時代前期後半（4世紀後半）に長岡京市域を見下ろす尾根上に作られた当時の権力者の墓で、乙訓一帯の権力者たちの盛衰を知るうえで重要な古墳
デジタルデバйд	インターネットやコンピューター等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差
出前ミーティング	市民が主催し、説明者として市の職員が会場に出向く制度
都市機能	市民生活を支援する商業・福祉・医療・教育サービスや公共交通、交流などの機能
とりこぼさない支援体制（重層的支援体制）	家庭の中で複雑化・複合化している課題や、制度のはざまにある課題への支援を行うため、断らない包括的な支援体制を整備する目的で、相談支援、参加支援事業、地域づくり事業を一体的に実施するもの

■な行

用語	説明
長岡京駅前線	JR 長岡京駅西口から長岡天満宮・八条ヶ池をつなぐ都市計画道路
長岡京芸術劇場	「長岡京市全体を巨大な劇場に」という構想のもとに、（公財）京都府長岡京記念文化事業団との連携事業をはじめ、市内で行われる様々な文化芸術活動の振興を行うプロジェクト
長岡京市における路上喫煙等の被害の防止に関する指針	人通りの多い道路等を、路上喫煙被害防止啓発重点区域（以下「啓発重点区域」という。）として指定し、その啓発重点区域を主とし、路上喫煙等による望まない受動喫煙やポイ捨て、火傷・火災等の被害のないまちづくりを推進することにより、快適で安全な生活環境を保持することを目的とした指針
にじいろ企業登録制度	企業及び事業所並びに行政が一体となって性的マイノリティの理解の促進を図るための制度

乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）	親の就労状況にかかわらず、時間単位などでこどもを保育所や幼稚園などに預けられるようにする制度
認知症サポーター	認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者となるため「認知症サポーター養成講座」を受けた人
ネーミングライツ	市の施設、イベント等について、その全部又は一部に通称を命名する権利
ネットワーク	ものまたはデザインが相互に関係しあう仕組み

■は行

用語	説明
パークアンドライド	郊外から業務地区や観光地等へ集中する自動車交通を、バス、鉄道等の公共交通にシフトして渋滞を緩和する手法
パートナーシップ	市民・市民活動団体・事業者（企業）・行政などが、お互いに信頼のおける相手と認め合い、連携・協力によって生み出される相乗効果により、単独では実現困難な事業を効果的に達成するための連携・協力関係
発達障がい	アスペルガー症候群をはじめとした広汎性発達障がい、学習障がい（LD）、注意欠如多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）その他これに類する脳機能の障がいであってその症状が通常低年齢において発現するもの
バリアフリー	障がい者や高齢者等が生活する上で妨げとなる物理的障壁や社会的な障壁がないこと
阪急長岡天神駅西地区	阪急長岡天神駅周辺の西側地区。検討中の阪急京都線の連続立体交差化事業の影響が比較的少ないことから、先行して市街地整備事業の検討を進めている。
阪急長岡天神東地区	阪急長岡天神駅周辺の東側地区。検討中の阪急京都線の連続立体交差化事業と一体的に整備していく必要があるため、段階的な整備事業を進めている。
非営利	無償ということではなく、事業から生じた余剰利益を構成員で配分しないこと（サービスの提供など事業実施において収入を得てはいけないということはない）
東ポンプ場跡地	浄水場から配水池へ水道水を送る際、中間地点で加圧する施設。施設の効率的な運用を図るため、この中間施設を廃止し、浄水場から直接配水池へ送水できるよう改修工事を行った。
フードロス	本来食べることができるにもかかわらず捨てられてしまう食品
プラットフォーム	複数の主体が共通の目的を達成するために、互いに連携・協力する

	ための基盤や仕組み
プレイリーダー	子どもが自ら遊び育つ環境づくりの知識と技能を備え、多様な人が参画できる子どもを中心とした遊び場をつくる人
プレコンセプションケア	男女ともに、性や妊娠に関する正しい知識を身に付け、健康管理を行うよう促す取組
放課後児童クラブ	保護者が就労などにより、昼間家庭にいない児童に対し、放課後や学校休業中に健全な育成を図る目的で与える遊び及び生活の場
防災重点農業用ため池	以下のいずれかに該当する農業用ため池であって、ため池工事特措法に基づき都道府県知事が指定したもの。ただし、(1)から(3)までの指定要件については、氾濫解析を基に、決壊に伴う流水により歩行が不可能となる水深 0.5m 以上かつ流速 1.0m/s 以上又は水深 1.0m 以上かつ流速 0.5m/s 以上の範囲に住宅等が存在しないことが明らかになった場合、防災重点農業用ため池に指定しないことができる。 (1)浸水区域のうち当該農業用ため池からの水平距離が 100m 未満の区域に住宅等が存すること (2)貯水量が 1,000m³ 以上かつ浸水区域のうち当該農業用ため池からの水平距離が 500m 未満の区域に住宅等が存すること (3)貯水量が 5,000m³ 以上かつ浸水区域に住宅等が存すること (4)上記(1)から(3)までに該当する農業用ため池に準ずるものであること、当該農業用ため池が決壊した場合にはその周辺の区域の住宅等の居住者又は利用者に被害を及ぼすおそれ大きいと認められること
補助幹線道路	地方部にあつては、主として地方生活圏内の一次生活圏の骨格となるとともに幹線道路を補完し、一次生活圏相互を連絡する道路をいい、都市部にあつては近隣住区内の幹線となる道路
ほっこりんぐ	「国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律」に基づき、本市において障がい者就労施設等の受注の機会の増大を図るために、障がい者就労施設等で製作された商品・食品等を販売する場所を市役所ロビーや、イベントにおいて設けるもの
ボッチャ	ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ 6 球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競うスポーツ。年齢、性別、障がいのあるなしにかかわらず、すべての人が一緒に競い合えるパラリンピックの正式種目の一つ
ポピュレーションアプローチ	集団に対して健康障害へのリスク因子の低下を図る方法
ボランティア	自発的に事業に参加する人。特に、社会事業活動に無報酬で参加すること

■ま行

用語	説明
まち活 MTG	長岡京市助け合いとつながりのまちづくり条例第 12 条「多様な市民等と市がまちづくりを考える場」から生まれた市民ワークショップ
マッチング	お互いの条件に合わせて結びつけること
みどりのサポーター	市内の公園や道路の植樹やごみを減らす活動を行うみどりのサポーター制度に登録された人・グループ
モビリティマネジメント	1 人 1 人のモビリティ（移動）が、社会的にも個人的にも望ましい方向（過度な自動車利用から公共交通等を適切に利用する等）に変化することを促す、大規模、かつ、個別的に呼びかけていくコミュニケーションを中心とした交通政策

■や行

用語	説明
ヤングケアラー	本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っているこども・若者
ユニバーサルデザイン	「すべての人のためのデザイン」を意味し、年齢や障がいの有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用可能であるようにデザインすること
要配慮者	高齢者、障がい者、乳幼児その他の特に配慮を要する者

■ら行

用語	説明
リサイクル	廃棄物を再利用すること。原材料として再利用するマテリアルリサイクル、焼却して熱エネルギーを回収するサーマルリサイクルがある。
リデザイン	再構築する、再設計すること
リノベーション	建物や構造物を修復し、新しくまたは改善された状態にすること
歴史資料展示室	新庁舎（2 期）の 2 階に整備予定の部屋であり、「博物館機能」だけでなく、「集客・交流」事業及び「誘導・周遊」事業による「ビジターセンター機能」も担うことで、まち全体を大きな博物館と見立てる「まちなか博物館ネットワーク」の中心施設としての役割を果たす。
連続立体交差	鉄道線路を高架化または地下化することで、複数の幹線道路との平面交差部分（踏切）を一挙に立体交差にすること

■わ行

用語	説明
ワーク・ライフ・バランス	一人ひとりが、やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、仕事と家庭や地域生活等との調和が保たれ、人生の各段階に応じて多様な生き方を選択及び実現できること

■アルファベット

用語	説明
COOL CHOICE	CO ₂ などの温室効果ガスの排出量削減のために、脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買換え」、「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」など、日々の生活の中で、あらゆる「賢い選択」をしているという取組
e スポーツ	「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称
NPO	Non profit organization の略。利益を上げることが目的とせず、社会にある様々な課題（環境や福祉、まちづくり、国際交流、教育、文化、スポーツなど）を考え、その解決を組織の目的や使命に掲げて活動している民間の団体や組織
QOL	Quality of Life の略（生活の質）。物理的な豊かさやサービスの量、個々の身辺自立だけでなく、精神面を含めた生活全体の豊かさと自己実現を含めた概念
SDGs	平成 27 年（2015 年）9 月の国連サミットで採択された国際社会全体の持続可能な開発のための国際目標（SDGs（Sustainable Development Goals の略））
SNS	ソーシャルネットワーキングサービスの略称で、インターネット上で交流できるサービスの総称